

平成24年度第2回府中市健康地域づくり審議会報告書(概要)

- 1 日時 平成25年3月26日(火) 19:00~20:24
- 2 場所 府中市文化センター3階会議室3
- 3 出欠 委員10名出席 欠席3名
- 4 市長あいさつ

当審議会は、昨年の6月、新たな課題に取り組む体制として4分科会体制をつくり、次世代創造、いきいき世代づくり、熟年元気づくり、長寿サポートという四つの分野で議論をスタートした。本日はそれぞれの分科会での中間報告となるが、各分科会に与えられた課題についての議論が緒に就いた段階というふうに認識している。この審議会に期待するところは、1年後の平成26年春から市役所の体制を刷新し、この審議会の議論を受けた新たな体制でもって、また10年程度の政策展開を考えていきたいと思っている。

当審議会には、病院の問題やら10年近く府中市のこの分野の市政を御指導いただき、今回、1年間ぐらいかけての議論で次の10年間の目標づくりをお願いいたした。事務局の方も勉強不足で皆様には御迷惑をおかけしたり、まだまだ議論が盛り上がっていないような状況もあったりするかもしれないが、10年先にはこうなったらいいなというところを、是非皆様にいろいろ構想いただき、まだ半年ぐらいは議論にかかると思われるが、次の府中市の健康地域づくり政策をぜひご提言をいただきたい。皆様の見識あるご提言に期待している。

本日は中間報告ということだが、まだ事務局の方も十分皆様の議論を支えるだけの準備ができておらず、十分な報告にはならないかもしれないが、今後の残された後半の議論に期待を申し上げあいさつにさせていただきたい。ぜひ頭のふたを外して、10年ぐらいいを見通して、様々な議論をお願いいたしたい。

5 会長あいさつ

今、市長から、これから10年先を見通した議論、あるいは課題を出していただきたいというあいさつがあった。10年先は大体2025年になり、団塊の世代がすべて後期高齢者に入っていくという年代になっており、今まで高齢社会、高齢社会と言っていたのが、今度は後期高齢社会の時代になり、国では2025年問題と言ったりしている。実は高齢社会だけでなく、高齢少子社会であり、何となく暗いイメージが付きまとっているが、暗いイメージではなくて、それにひるまず、どのようにポジティブな社会に切りかえていくかということが我々の大きな課題となっており、まさに府中市もそういうステージに差しかかっている。この審議会の役割は非常に大きいものがあると認識しているところである。

今日は2回目の、装いを新しくした府中市健康地域づくり審議会で、四つの分科会の中間報告がされると思うが、忌憚のない御意見により次の議論の課題をぜひ見つけたい、そして次にまたつなげたいと思うので、どうぞ忌憚のない、また熱心な御議論をお願いしてごあいさつといたしたい。よろしくお願いいたしたい。

6 議事（分科会中間報告）

【次世代創造分科会】

(1) 事務局からの報告

① 開催状況 第1回目：平成24年11月30日

第2回目：平成22年2月22日

② 審議会からの指示事項及び政策指標（省略）

③ 分科会の進捗状況

次世代を担う人口量を確保するため、雇用、婚活、出産、子育ての分野において男女が共に仕事も子育ても充実できる環境整備について2回にわたり討議した。第1回では、「子どもの数を増やす」ことについて審議し、意見を集約し、第2回では、育てやすい環境・産みやすい環境・住みやすい環境・支援しやすい環境の四つの環境に基づく、自立（雇用）・婚姻（婚活）・出産・子育ての分野で、子どもを増やすための環境を整えるためにどんな課題があるのかに的を絞って議論を重ねてきた。主な意見は次のとおり。

○即効性があるものと、長い目で見ていく計画によって、子どもを産みたいと思ってくれる人を育てることが重要になってくる。

○子育てしているお母さんが働くことのできる環境づくりが必要ではないか。

○府中市の人口で、30歳から34歳の人口が減っている。この年代にとって住みやすく、メリットがある町づくりが流出に歯止めをかけるのでは。

○親の子育て力、家庭力を高めながらの支援、親育てと子ども育てと両方の支援が必要。また、受け身でなく自主的に活動できる支援が必要。

○子育てカフェをお母さんたちが運営して、自分たちで取り組むとよいのでは。楽しくできることが、続けられるポイントである。

○発達障害、離婚家庭、不妊治療など、情報交換ができる場所を増やすこと出来ればよいのではないか。

○敷居の低い相談窓口があり、総合的な相談ができる人がいればいいと思う。

○身近な地域で、子育て家庭に対してすぐに支援できる体制があればいい。

○婚活の前に自分育てのために若い人たちのできる活動を取り入れたらどうか。

④ 今後の予定

自立（雇用）・婚姻（婚活）・子育てなどの政策・課題に対応できるよう女性

の自立を支援するといった観点から、例えば「気軽に相談や情報交換できる総合的相談窓口があったらよい」といった意見を参考に議論を深めていく。

(2) 意見等

谷委員 次世代を創造する世代の委員の方、特に女性委員が多く、若い方々が一生懸命考えてくださっていることは非常に頼もしく思っている。

産科の問題、小児科の問題、保育所、育児、それから雇用、税金、土地、空家など問題提起があったが、府中市の状況や、長期的か短期的なのかを考え、より優先されるべきもの、比較的着手しやすいような課題に焦点を絞り、何でも相談できる支援相談窓口の設置を提案した。

会長 30歳から34歳までの人口だけ際立って減少していることについて、転出理由などを分析し解析していくべき。

【いきいき世代づくり分科会】

(1) 事務局からの報告

- ① 開催状況 第1回目：平成25年2月7日
- ② 審議会からの指示事項及び政策指標 (省略)
- ③ 分科会の進捗状況

生活習慣病の予防と改善、がん検診受診率の向上によるがんの早期発見と早期治療、自殺やうつ病などのメンタルヘルス対策や障害者が自立した地域生活を送るための環境整備などの検討を行うことについて、府中市における生活習慣病の特徴、自殺の実態、障害者の雇用状況、府中市の健康づくり事業やうつ・自殺予防対策、自立支援協議会の概要について資料収集と議論を行なった。主な意見は次のとおり。

《メタボリックシンドローム予備群・該当者の減少について》

○義務付けられている事業場の健康診断をきちんとすれば受診率は高まるのではないか。

○市民は職場の健診や特定健診、様々な健診を受けているので、トータルすると受診率は高くなるのではないか。

○小規模事業所の受診率が悪いので、医師会が実施している小規模事業所の健康診断の利用を上げるようにしなければならない。

○がん検診は府中地区医師会で十分対応できるので、検診体制整備について医師会と協議し、府中市民にきちんと広報し、地域での受診率を高める努力が地域づくりとしても必要である。

《自殺死亡者の減少について》

○精神保健福祉士による相談窓口「精神保健福祉相談」をもっと広報しなけ

ればいけない。

○窓口で相談を受け、その人たちが専門家に引き継ぐと言う仕組みが必要である。

○高齢者の見守りを体制づくりの中に組み込む工夫が必要である。

④ 今後の予定

生活習慣病予防やうつ・自殺予防のために、すべての市民が生涯にわたり健康に暮らすことを応援する仕組みづくりの議論を深め、市の取り組み、地域の取り組み、職域の取り組みを含めて議論を重ねていく。

(2) 意見等

金光委員 受診率向上のいい案が見つからなくてずっと苦慮しているところだが、地域の老人会や町内会の場所に出て行って、何のために健康診断が必要なのかということをはっきり説明する機会を設けてはどうか。

自殺対策として、福山・府中地域対策協議会の非常にいいホームページができていますので、皆さんに知っていただいて、御活用いただきたい。

会長 この分科会は働く世代が対象で、しかも府中市にはたくさんの事業所があるので、事業所の健康づくりにアクセントを置いた取り組みをしてもいいのではないかと。

【熟年元気づくり分科会】

(1) 事務局からの報告

① 開催状況 第1回目：平成24年11月19日

第2回目：平成25年2月26日

② 審議会からの指示事項及び政策指標（省略）

③ 分科会の進捗状況

高齢者の社会参加と生きがいづくり、高齢者の働く機会づくり、健康づくりの推進などの検討を行い、高齢者が生きがいを持って日々暮らしていくことが政策指標である元気高齢者の増加と要介護期間の短縮につながるという観点から、これまで高齢者の生きがいづくりというテーマに沿った資料収集と議論を行なった。特に、高齢者の社会参加、働く機会づくりという視点を踏まえ、高齢者に人材資源としての社会の担い手になっていただくという点にポイントを絞って議論を重ねてきた。主な意見は次のとおり。

○高齢者の生きがいづくりの一つとして、シルバーベンチャーなどを始めてみたら面白い。事業プランコンテストなどのコンペをしたらどうか。

○シルバーベンチャーを始めるに当たり、当初の事業資金として市から補助を行うにしても、半額を投資などの自己負担を求めた方がいい。

○シルバーベンチャーについては、当初の資金（コスト面）を考えると6次産業を前提とした農業に絞った方が現実的かもしれない。

○何を始めるにしても核となる人を発掘することが非常に大事である。

○高齢者の雇用について考えてみることは重要で、出勤してもらわないと困りますという環境が元気な高齢者でいていただくことにつながる。

○学校の放課後に子どもの面倒を見てほしいという具体的な市民ニーズの部分を高齢者に担っていただけないか。放課後児童クラブを補完する機能や、いきいきサロンを常設型にして活用するなどいろいろなことが考えられるのではないか。

○おしゃれをするということは元気につながる。今後は楽しみを提供する議論も深めたい。

④ 今後の予定

高齢者が人材資源として社会の担い手になっていただくという点を中心に、高齢者の生きがいづくりのために市ができること、地域ができること、事業所ができることなどについて、核となる人物像も含め、議論を重ねていく。

(2) 意見等

副会長 新しい分科会は、委員の皆さんが各方面で非常に活発に活動されており、自分の活動について積極的に意見を出して非常に深まった論議ができています。家に引きこもったり、とかく暗いイメージであるが、ポジティブに、社会の役に立つ仕事をしたいと思っている高齢者は予想外に多いと思う。

谷委員 次世代創造分科会でも、学校の放課後に子どもの面倒を見てほしいという子育て支援が必要だという意見が出された。子どもと高齢者との触れ合いが生まれ、生きがいが出てくるので、熟年元気づくり分科会でも進めてほしい。

【長寿サポート分科会】

(1) 事務局からの報告

① 開催状況 第1回目：平成24年11月1日

第2回目：平成25年3月21日

② 審議会からの指示事項及び政策指標（省略）

③ 分科会の進捗状況

高齢者を中心とする地域住民の生活を「支える医療」を進めながら、高齢者が住み慣れた地域で生活できるまちづくりのための地域包括ケアシステムの構築、医療と介護の連携強化及び要介護者を支えるための在宅サービスの充実強化の必要性について議論を行ってきた。主な意見は次のとおり。

- 終末期とは看取り場所という問題ではなく、病院・施設・自宅における看取りまでの生活の場として考えていく必要がある。
- 終末期を自宅で過ごしたいと思っている人の希望を実現するには、介護職の人材不足を補い、医療と介護の連携をしっかりとっていくことが必要になる。○在宅での生活は、医療と介護がどう携わるのかといったケア会議を行うなどのシステムづくりが必要である
- 訪問介護を行うためには、介護できる体制が家庭にあるかどうか重要である。
- 介護職が少ない中で24時間の介護体制をつくれるか疑問がある。
- 府中市には南圏域と北圏域の2つの圏域があり、北圏域は山間部が多く雪や凍結といった地理的な違いがある。
- 終末期の要介護になって以降の状態を、身体的には苦痛、精神的には家族への負担感、孤独といった心の問題をサポートする必要がある。
- ケアマネジャーが主体となって決めている介護サービスの内容を多職種連携会議といったもので本当に必要なものかどうかニーズに照らしての評価を強化していかなければならない。
- 府中地区医師会の准看護学院を、質の高い看護師はもちろんのこと、介護職員の質を高め育てる機関であるということを大きく掲げ、医師会も含めてこの地域の政策にしてはどうか
- コールセンターを含めての看取り体制の整備が必要である。
- 府中市民病院も現在3人の患者の在宅医療を行っている。今後も地域のバックアップの意味からも病院から出ていかなければと思っている。

④ 今後の予定

高齢者を中心とする地域住民の生活を「支える医療」を進めながら、地域包括ケア体制の構築に必要な施策について議論し、医療・介護の連携強化の施策について議論を重ねていきたい。

(2) 意見等

大森委員 死亡者数、死亡場所についての資料から、全国データでは、例えば在宅で亡くなる方が12.4%、府中市では8%ぐらいで、まだ4%ぐらい少ない。審議会からの指示事項の一番にある政策目標で「終末期を在宅で迎える高齢者の率の向上」に関して、我々のやらざるを得ないということが沢山あるのではないかと感じている。

24時間看取り体制は非常にいいことだが、いざ実施するとなるとなかなか隘路が多くて、簡単ではないという印象は持っている。

会長 亡くなる最期の場面で、これは医師法で医師が看取らなくてはいけない

ことになっており、医師が看取るという体制のためには、人材や方法の問題がある。それを確立するためにはやはりネットワークだと思う。

【全体を通しての意見】

市長 今回すべての政策メニューが揃うということはありません。ぜひお願いしたいのは、問題の構造をある程度クリアにさせていただき、どの方向を目指してやらなければいけないのか、市のできる狭い範囲にとどまらないで、是非もっと大きな、もっと言えば根本的な課題を是非ぜひご議論・ご提言いただきたい。

働く女性が多いというのは、一方でやっぱりキャリアを大事にして結婚しない、子どもをつくらないという展開も十分ある。ここを両立させるということが恐らく本質的な問題になり、県や国に要望していくという道や、府中市から発信していく方法もあるが、やはりその構造をもっと解明していただきたい。

会長 大づかみに全体像を出すということと、もう一つは、具体的な問題点ばかりでなく根本的な問題点を、必ずしもそれが解決に結びつかなくてもいいので、取り上げていただきたい。

高田委員 育児休業法の改正等々で休むことのできる体制は整っている。だから、介護と仕事、保育は両立することのできる方策を、職場として考えていかなければならない。

市長 働きながら子どもを育てるということをもっと一般化するためには、新しい可能性があるのかもしれない。よって事業所内保育所に対する新たな支援政策といったことも政策提言に盛り込んでもいいのではないかな。

会長 コールセンターは、この地域内にあって、地域内のネットワークづくりをしっかりとっておくはならないと思う。特に長寿サポート分科会においては、いわゆる看守り体制とのつながりもあり、ネットワークづくりを政策として押し立てていただきたい。

市長 市民が、消費者が、すべて満たされる、その要求をすべて満たすための体制づくりや道具そろえをする方向だけではないのではないかな。死に方を選択する力とか、あと家庭で看取る力量とか、そういったもの養っていく必要があるのではないかな。市民の側の、しっかり家庭で看取れるような意識改革というのも大きな政策課題になっていくのではないかなと思っている。ぜひご検討をお願いしたい。

瀬川委員 介護保険制度の中で、府中市が担っていく介護の量がどの辺までなのか、担うための保険料はどの辺まで負担しなければならないのか。幾らでも1号被保険者の保険料を上げていってもいいことにはならないので、やはり一定

の事柄について示していただきたい。

板橋委員 分科会は、4つに分かれているが全部つながっているということを感じており、若者は、自分より早く人生を歩んでいる人を見て、自分の人生の計画を立てるように思う。一人ひとりが自分の力をより高めていく、人間力を高めていって、子育てを楽しんでいる過程を見せたり、年を重ねても自分の好きなことをして生き生きしている姿を見せたりすることが必要である。

原田委員 女性の就業について、府中市はもともと女性の就業が高くとてもいいことだが、最近預けて働く以外に選択肢を希望する女性が増加している状況があり、一たん子育てに専念して、その後もう一回就職したいという思いも高いと聞く。再就職がしやすいというような状況があると、もう少し子育てに集中する時間ができるのではという視点もあるのではないかと、より女性が自分らしく働ける環境があるとさらに良いのではないかと。

看取りについて、戻ってきてほしいという家族の思いがあったのだが、やはり体調の急激な悪化に対する不安がすごくあって、本人が病院を希望したということがあった。痛みに対する懸念・恐れがあっても患者自身が安心して家に戻れるとか、そういう環境については全国的にもまだまだのところが多いのではないかと。

平田委員 分科会での色々な意見を出していただくのを聞きながら、行政として今後取り組むべきヒントもたくさんいただいている。今後できるだけ多くの分科会にも出させていただきながら、素晴らしいまとめができると期待している。

会長 いずれの分科会も医療との関連が非常に強いので、こういった視点に立っての再構築が必要だと思うので、専門分科会を開くとかして、医師会との連携をもって少し意見を補強していただけたらと思う。

府中市健康地域づくり審議会の意図及び目標は、地域づくりということで非常にすばらしい。いい結果に結びつくように、いい目標に結びつくように進行していきたい。

7 閉会

副会長 どの分科会でも非常に熱心に論議していると聞いて、より頼もしく思う。今後の方向として、問題構造をクリアにし、全体像を、根本的な問題を明らかにしていくことが示されたので、進めていきたいと思っている。

以上